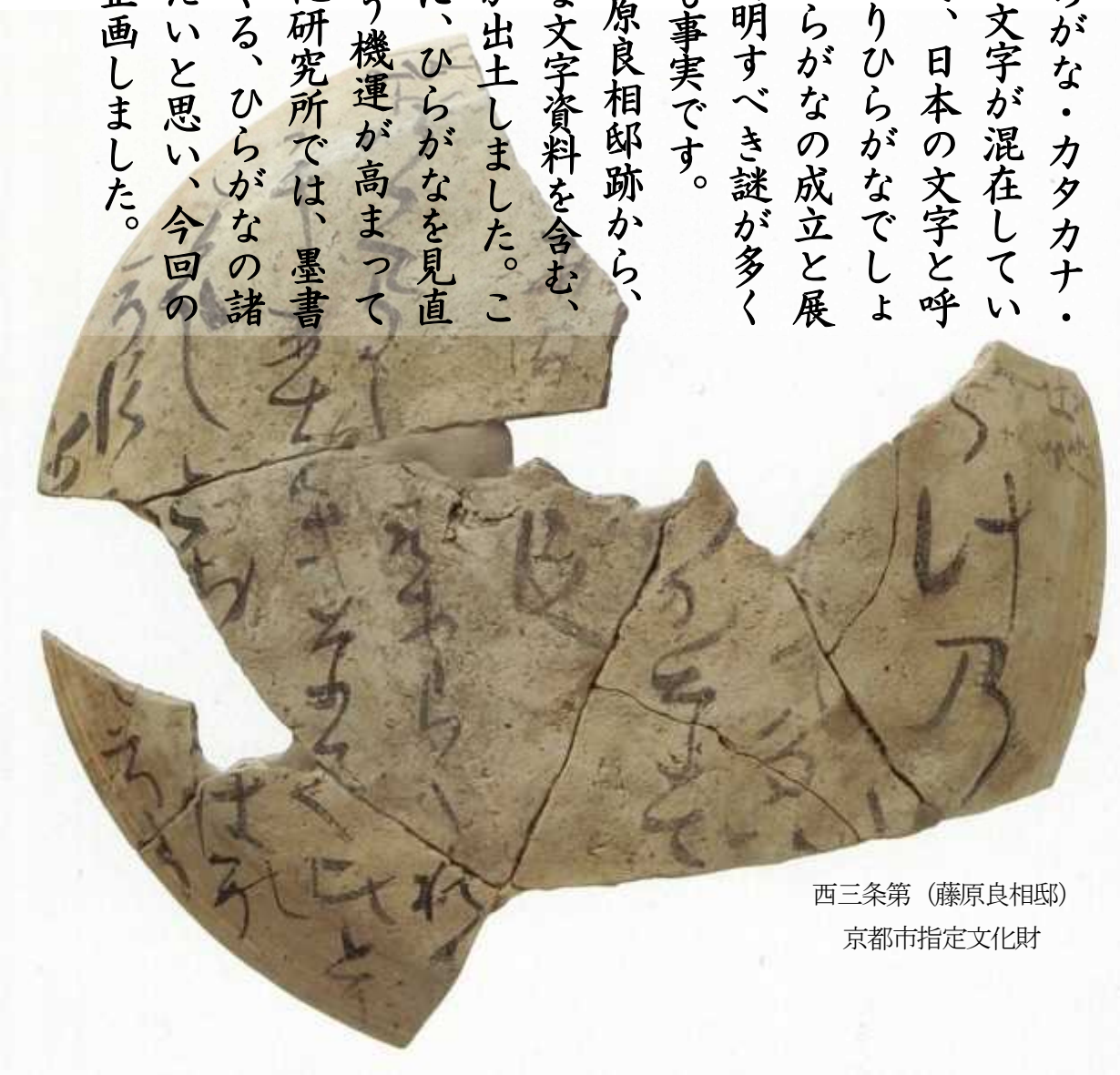
京都産業大学創立50周年記念事業日本文化研究所主催シンポジウム

「かな」という文字を考える

―墨書土器から見えてくるもの―

日本では、ひらがな・カタカナ・漢字と、三種類の文字が混在しています。そのなかで、日本の文字と呼べるものは、やはりひらがなでしょう。けれども、ひらがなの成立と展開の歴史には、解明すべき謎が多く残っていることも事実です。

平成23年、藤原良相邸跡から、最古級のひらがな文字資料を含む、多くの墨書土器が出土しました。この世紀の大発見に、ひらがなを見直してみようという機運が高まっています。日本文化研究所では、墨書土器から見えてくる、ひらがなの諸問題を考えてみたいと思い、今回のシンポジウムを企画しました。



西三条第（藤原良相邸）
京都市指定文化財

【日時】平成26年9月27日（土）13：00～17：00（開場：12：30）
【場所】京都産業大学壬生校地　むすびわざ館ホール
【定員】350名（先着順）　／　【締切】9月12日（金）必着
【申込方法】Web・往復ハガキ・FAXのいずれかでご連絡ください。
詳細は裏面をご参照ください。

【プログラム・報告】

「墨書土器が出土した遺跡・遺構について」　鈴木　久男（文化学部教授・日本文化研究所兼務所員）
「日本史学からみた仮名墨書土器」　吉野　秋二（文化学部准教授・日本文化研究所兼務所員）
「草仮名のゆくえ」　田中　登 氏（関西大学文学部教授）
「かな成立史・発展史と墨書土器 ―国語文字史研究の立場から―」
矢田　勉 氏（大阪大学大学院文学研究科准教授）

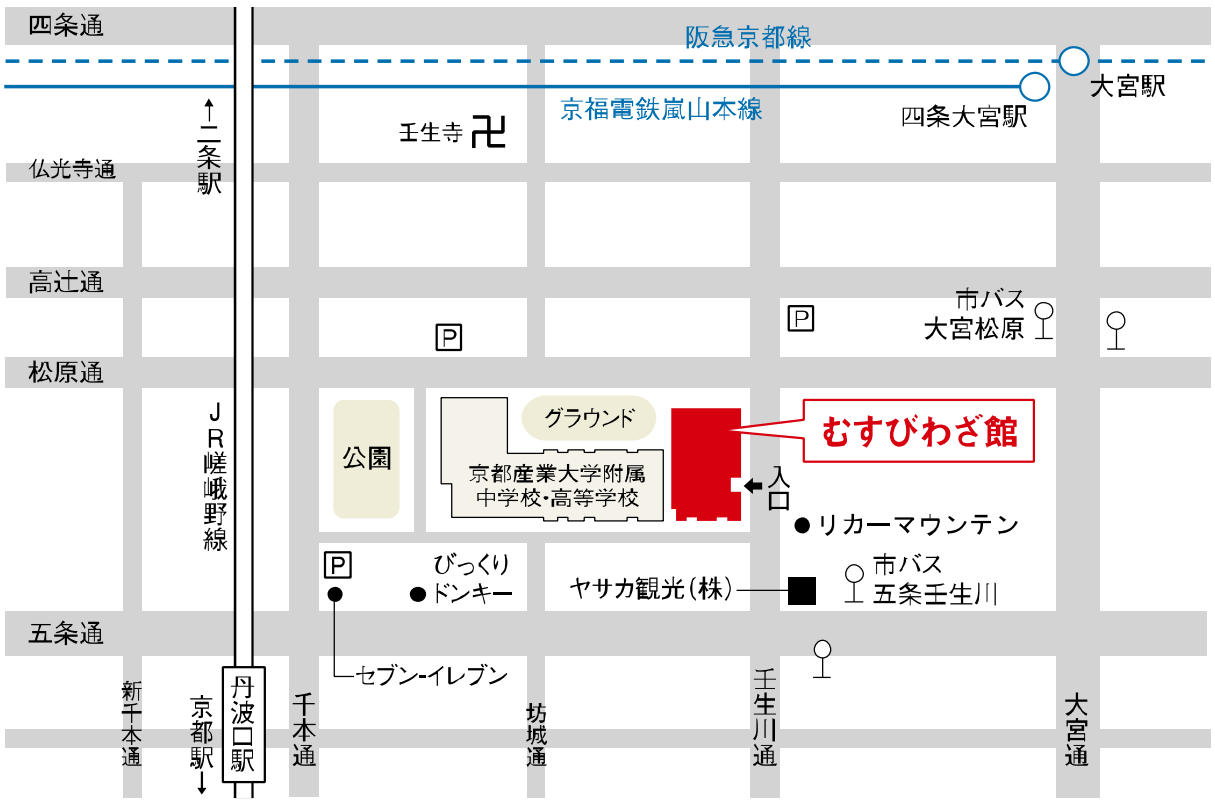
【コメンテーター】

森　博達（外国語学部教授・日本文化研究所兼務所員）
長谷川　千秋 氏（山梨大学教育人間科学部准教授）

【パネルディスカッション】

＜パネラー＞　鈴木　久男・吉野　秋二・田中　登 氏
矢田　勉 氏・森　博達・長谷川　千秋 氏
＜司　　会＞　小林　一彦（日本文化研究所長・教授）

むすびわざ館ギャラリーにて「平安京の文字―掘り出された歴史―」展（9月23日（火）から11月15日（土）まで）を開催中。実際に墨書土器をご覧いただくことが可能です。是非、当館ギャラリーにもお越しください。



むすびわざ館へのアクセス

JR 丹波口駅から徒歩約 4 分
阪急大宮駅から徒歩約 7 分
京福 四条大宮駅から徒歩約 7 分
市バス五条壬生川から徒歩約 2 分

※むすびわざ館に駐車場はございません。
ご来館には公共交通機関をご利用ください。

京都産業大学 壬生校地
むすびわざ館
〒600-8533
京都市下京区中堂寺命婦町 1-10

京都産業大学　創立 50 周年記念事業　日本文化研究所主催　シンポジウム

「かな」という文字を考える―墨書土器から見えるもの―

【往復はがきでの申込】
郵便番号・住所・氏名・電話番号・年齢・参加希望人数を記載の上、
〒603-8555　京都市北区上賀茂本山　京都産業大学日本文化研究所シンポジウム係　までお送りください。

【インターネットでの申込】
申込専用 URL　→　http://www.kyoto-su.ac.jp/more/2014/305/20140927_sympo.html

《問合せ先》
京都産業大学　研究機構（研究支援担当）　日本文化研究所事務局
TEL：075-705-1468　　E-mail：sympo-kenkyu@star.kyoto-su.ac.jp

参加申込　FAX 用紙

必要事項をご記入の上、下記 FAX 番号までお申し込みください					
住　所	フリガナ 〒				
氏　名	フリガナ	年　齢	歳	参加希望人数	人
		電話番号			
メールアドレス		FAX 番号			
今回申込をされる方で、今後、本学からのシンポジウムなどの案内を希望される方はチェックしてください。		□　希望する			

FAX　075-705-1966

Keep Innovating.
京都産業大学